

書二

中高版

12/2020・1/2021



令和3年書初誌上展出品要項発表

漢字半紙 (誌友～五段)

課題は段級別です。ご注意ください。

四し国こく靈れい場じょう巡じゆん拝ばい

四国靈場巡拝

名前はフルネームで書きましょう

(解説は17ページ)

小久保嶺石先生書

漢字半紙 (四段～初段)

課題は段級別です。ご注意ください。

寛かん永えい通つう宝ほう

寛 通
永 寶

名前はフルネームで書きましょう

(解説は17ページ)

小久保嶺石先生書

漢字半紙（1級～10級）

課題は段級別です。ご注意ください。

だい
ごん
げん
大権現

大権現

名前はフルネームで書きましょう

（解説は17ページ）

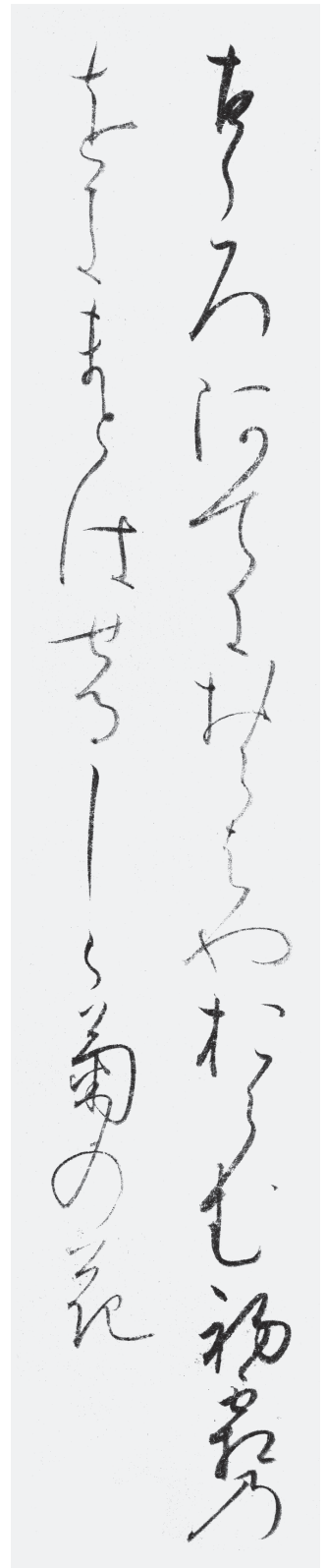
小久保嶺石先生書

かな半紙 (誌友～五段)

課題は段級別です。ご注意ください。

秀歌之體大略

〔筆者〕近衛家熙 (一六六七～一七三六・江戸中期の能書家・号は予楽院)



古、ろ阿て尔おら者や於らむ初霜乃を支まとはせるしら菊の花 「古今和歌集」 秋下二七七 凡河内躬恒

(解説は18ページ)

短冊について

鎌倉末期頃より和歌をしたためる書式として広まりました。横約6cm、縦約36・5cmの大きさで全懐紙をたてに八等分した大きさです。短冊には上下があり、雲・霞形は広いほうが、濃淡は濃いほうが、着色が異なる場合には色の濃いほうが上といったもので、練習用紙ならば、糊付けされている方が上になります。

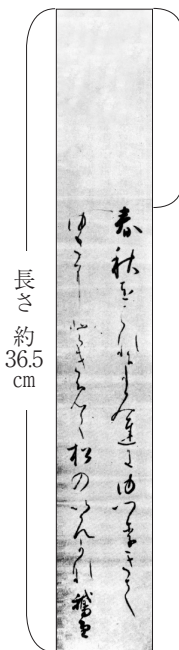
書式

伝統的な書式

- 短冊の上部を1/3または1/4空け、歌を書き始める。
- 墨継ぎは和歌の場合、第一句・三句・五句で行う。
- 下部が詰まり過ぎないように、少し空けるとよいでしょう。
- 行間や、字粒にも気をつけ、作品として調和するよう心がけましょう。また最近では、このような伝統的な書式にこだわらず、自由に書くこともあります。

提出用紙—やや薄手の短冊練習用紙。二つ折にて郵送できるもの。

余白 上部をおよそ1/4 (約9cm) またはおよそ1/3 (約12cm) 空ける



長さ 約36.5cm

幅 約6cm

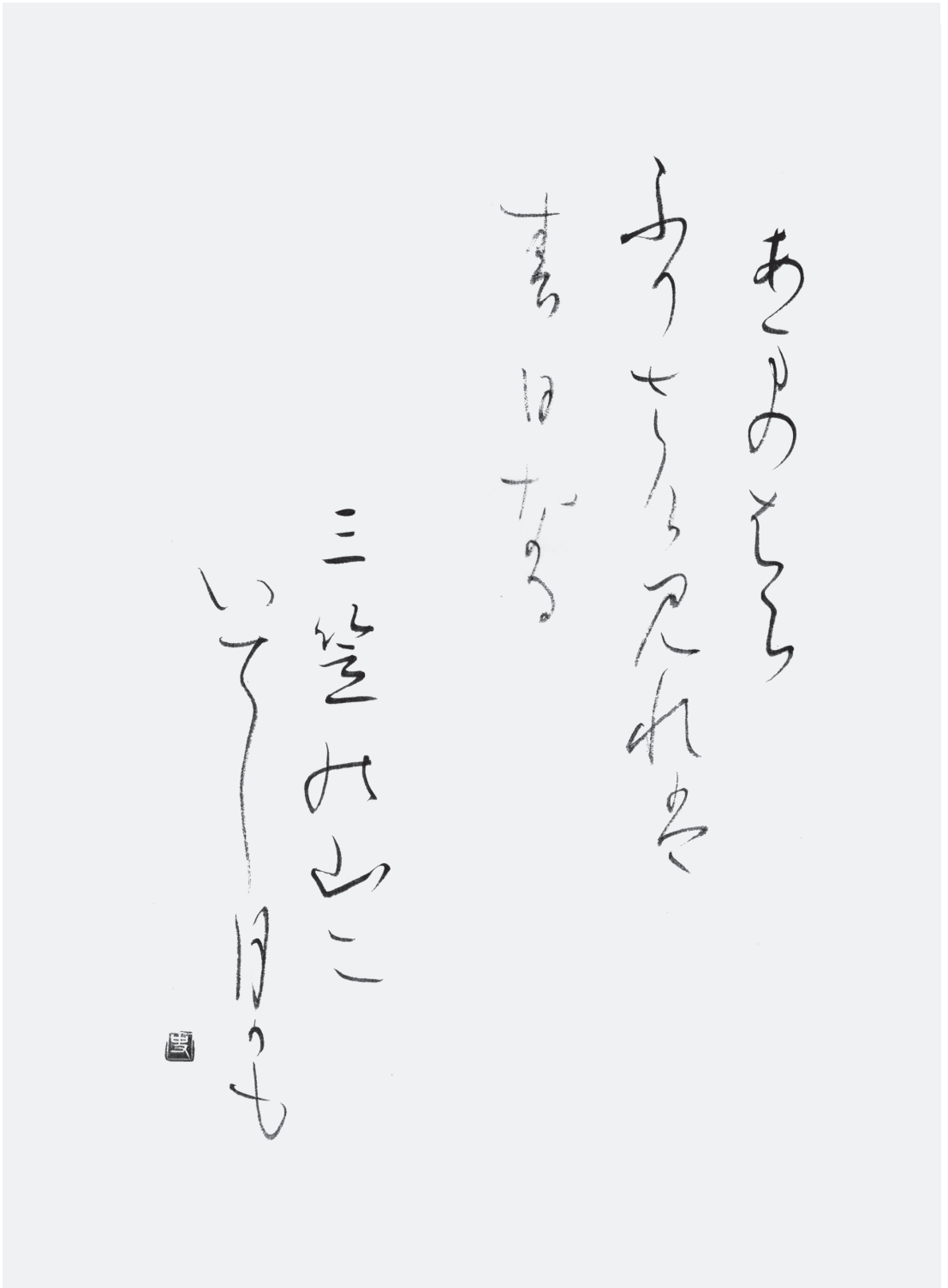
かな半紙 (四段～初段)

課題は段級別です。ご注意ください。

あ万の者ら
ふりさ介見れ盤
春日なる
三笠能山二
いてし月可も

名前はフルネームで書きましょう

(解説は18ページ)



川島史子先生書

かな半紙 (1級~10級)

課題は段級別です。ご注意ください。

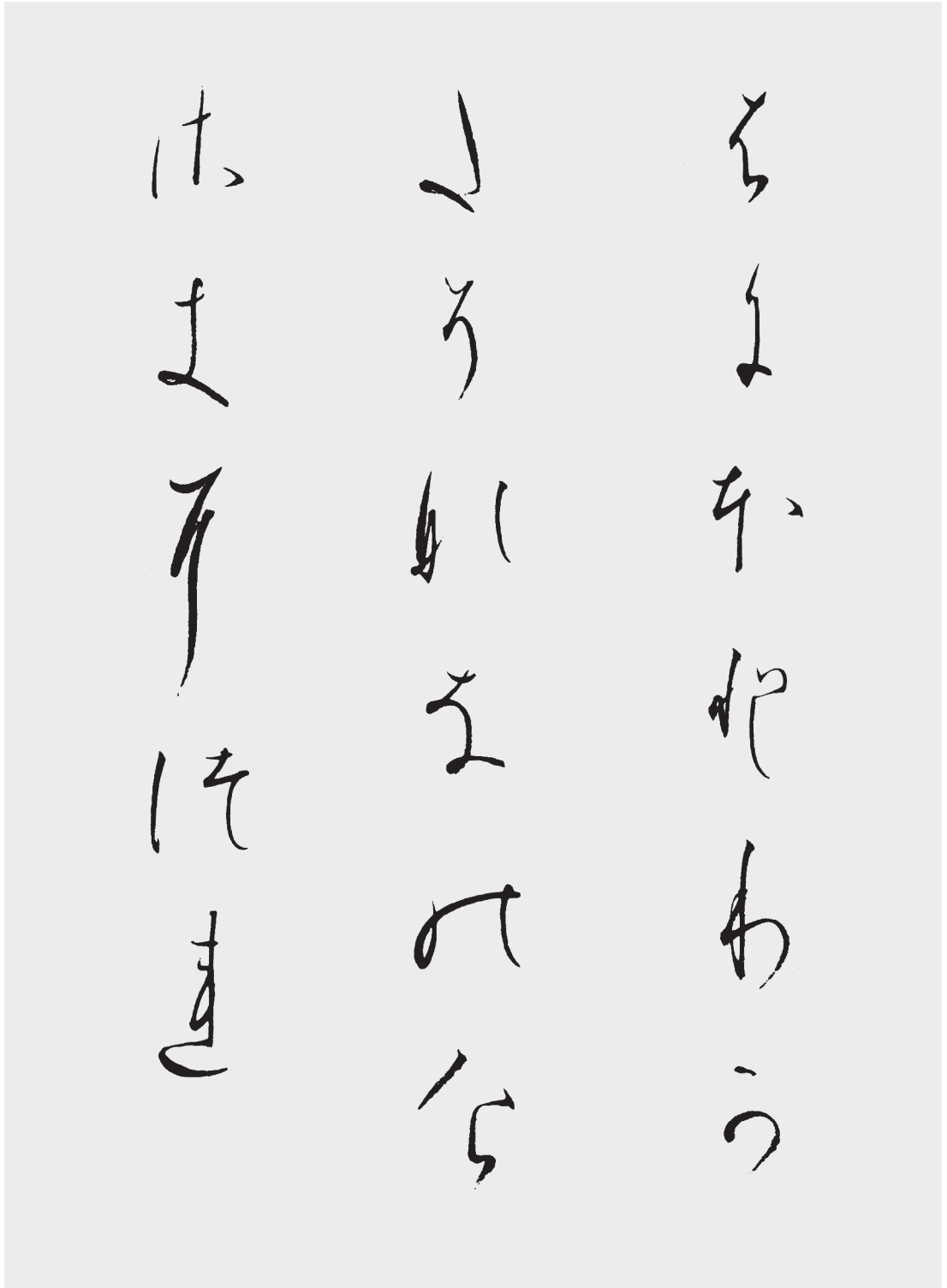
者^は尔^に本^ほ登^と利^り可^か

多^た曾^そ那^な能^の介^け

佐^さ支^き耳^に徒^つ連^れ

名前はフルネームで書きましょう

(解説は19ページ)



「梅雪かな帖」より



自由民権

机の上でも書くことができる横書の練習にもだいぶ慣れてきたようだ。8月号の「晴耕雨読」にも数多くの佳品が出品され、その中には自用印を使用しているものも増えてきた。縦画が多く難しい課題だったが、刀で切り裂くが如くの鋭い線をものした作品が最優秀作品に選出された。参考にして貰いたい。

さて、今月も4文字入れなければなりません。引き締まった結体の中にも、線の太細や向きに変化をつけ、陳密や空間に留意して書こう。幅びやかさと行書の粘りっこい書線で書こう。

書法

無理を承知で字形を縦長にして押し込ませるのも、また一つの創造だ。何か絵の画面に見る群像に似ていないだろうか。民権運動家の「板垣退助」を思いながら四字を書き入れるだけでも大変だ。最後まで仕上げよう。

なお、落款は細目に入れてみよう。

用具・用材

筆 永昌大号条幅
墨 一味真

紙 中国画箋(単宣) 半切二分の一

石橋鯉城先生書

(用紙 画仙紙半切 $\frac{1}{2}$ たて35cm×よこ68cm) 半切を半分に切って使用

※卓上でも書ける大きさです。

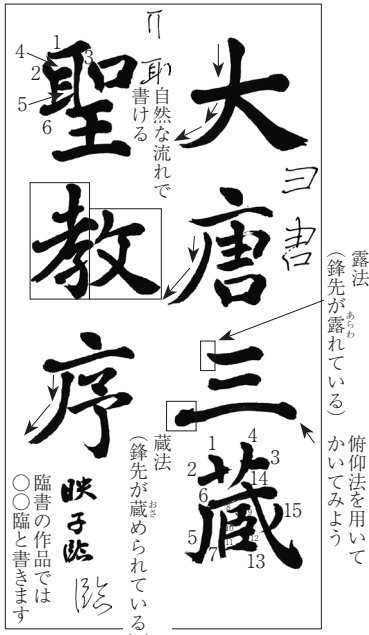
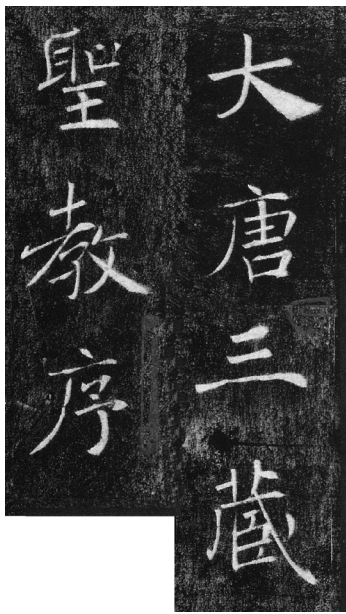
作品づくりの手始めとして取り組んでみる。

漢字条幅 (1級〜10級)

課題は段級別です。
ご注意ください。

小久保嶺石先生書

大唐三蔵
聖教序
映子誌



(用紙 画仙紙半折1/2・たて68cm×よこ35cm)

だいとうきんせうしやうきやうじゆ
大唐三蔵聖教序
〔書蹟〕

碑は慈恩寺雁塔内にあるので「慈恩寺聖教序」ともいう。二石に分かれており、序は太宗の撰文、序記は高宗の撰文。筆写は初唐の三大家の一人である褚遂良。序の文字は記に比べてや、小さく端正である。

〔解説〕

○初唐の三大家のひとり、褚遂良の『雁塔聖教序』を二行で臨書します。

○初唐の三大家の虞世南や歐陽詢の楷書とは趣が異なり、や、行意を含んだ書きぶりで抒情性を醸しています。

○用筆は弾力のある暢びやかさと鋼線のような勁さを兼ね備え、藏鋒露鋒を用い、俯仰法も取り入れた変幻自在な書きぶりとなっています。

○筆管を倒す(側筆・仰)起こす(直筆・俯)の用筆法「俯仰法」を用いて書いてみましょう。

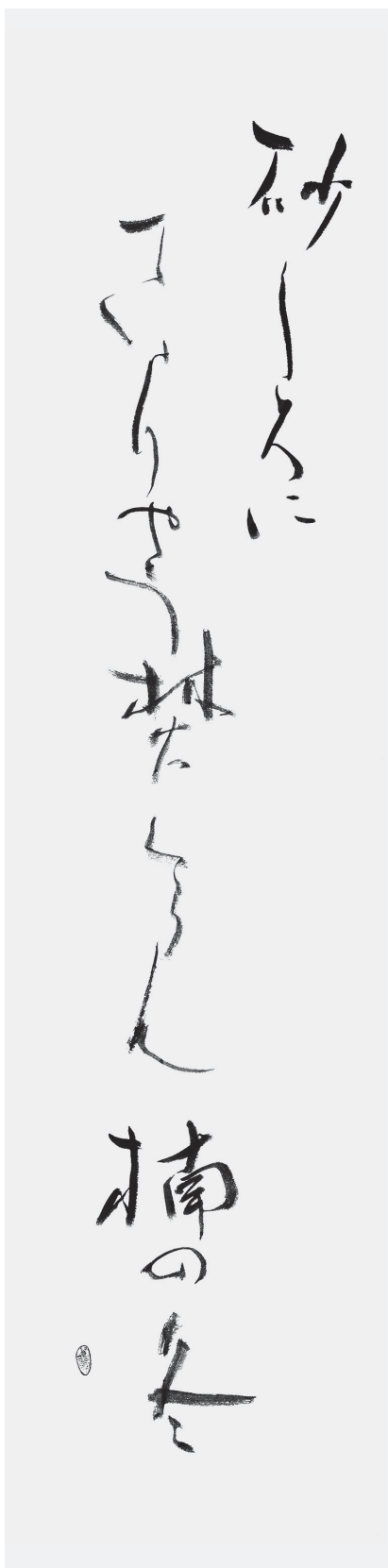
〈用具・用材〉

筆 永昌条幅
墨 和墨(油煙墨)
紙 中国画仙

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

かな条幅 (誌友く10級)

須山万寿先生書



砂しろにていりやう焚くらむ楠の冬

(用紙 画仙紙半折・たて136cm x よこ35cm)

〈読み〉

砂白すなしろに庭療ていりょう焚くくらむ楠くすの冬

〈作者〉河東碧梧桐 (一八七三〜一九三七)

〈大意〉大きな楠に囲まれた境内、身の引

き締まるような冬の情景。庭療と

は庭で焚くかがり火のこと。特に

〈解説〉

○今回は放ち書きにしました。一字一字を

君主の庭でたいまろ松明を焚いて、夜中参

内の諸臣を照らしたものである。

今治市大山祇(おおやまづみ)神

社に参拝した際に詠まれたもの。

切って書く書き方です。字は切れていま

すが、字間の変化、タテ線の流れに気を

つけて明るく仕上げて下さい。

○一文字の存在感、特に「砂」・「焚」・「楠」・

「冬」の漢字の表現に工夫して下さい。

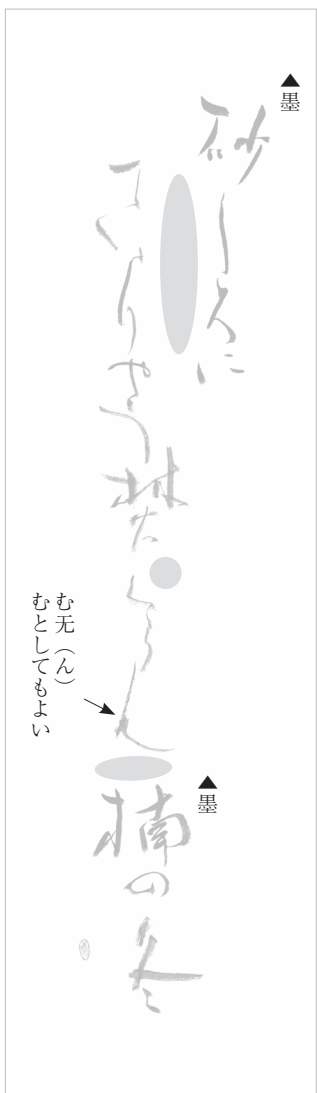
○変体仮名は、む(ん)のみです。

〈用具・用材〉

筆Ⅱ羊毛筆 墨Ⅱ和墨

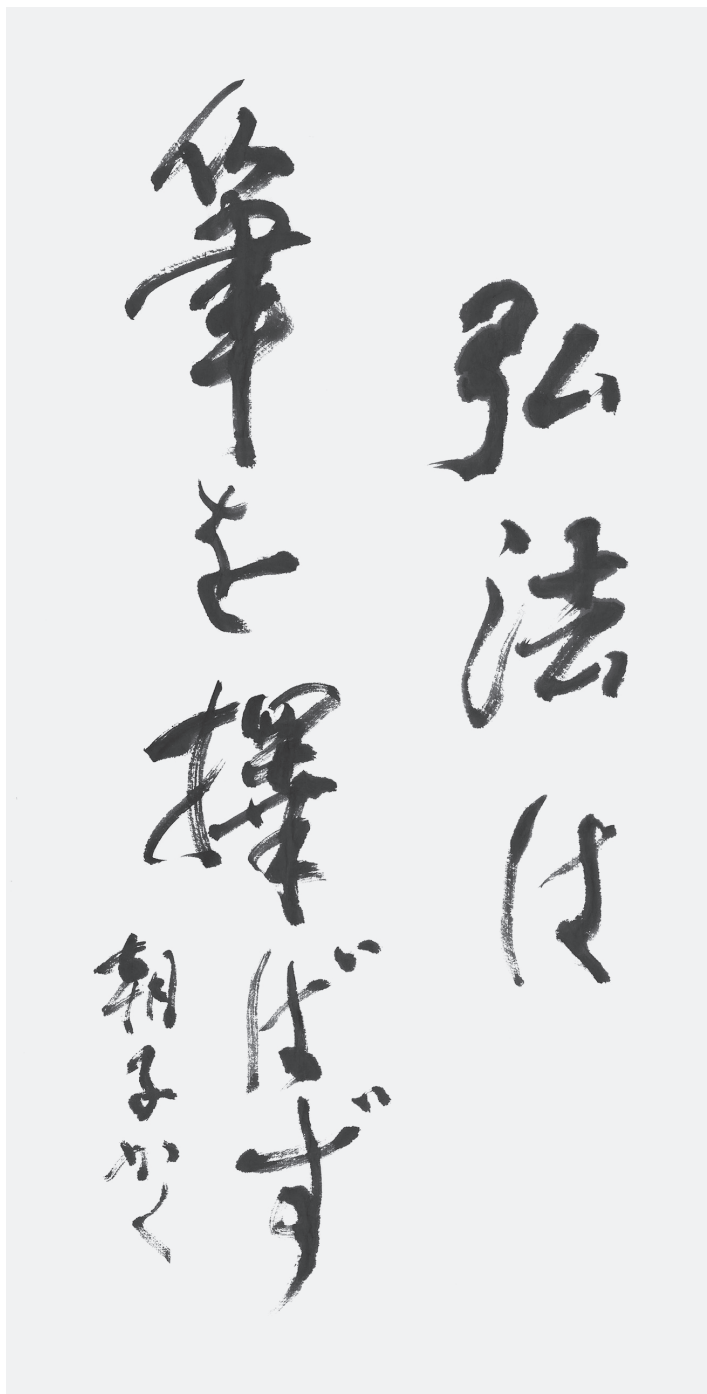
紙Ⅱかな用加工紙

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



新和様 (八段、初段)

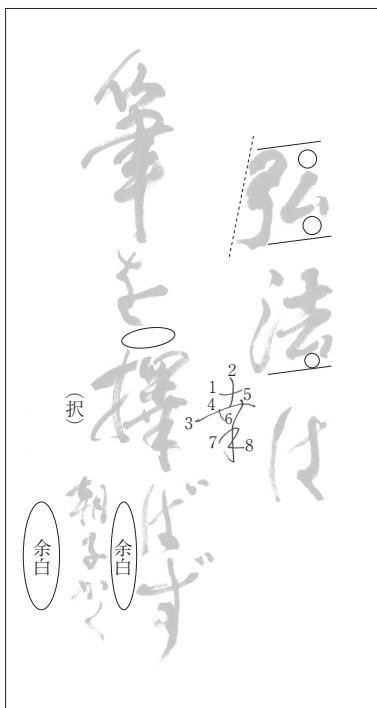
課題は段級別です。ご注意ください。



永井香樹先生書

(用紙 画仙紙半切1/2・たて68cm×よこ35cm)

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



○白が黒(文字)を引き締めます。○文字の大・小の変化
○用紙に対して大き過ぎないように、天・地・左右の空間を生かしましょう。

弘法は筆を擇えらばず

〈大意〉

文字を書くのが上手な人間は、筆の良し悪しを問わないという意味のことわざ。また、書こうとするものに相応しくない筆は擇えらばない。筆を擇えらぶばずずという意味もある。

〈解説〉

皆さんの作品の中には、筆勢もあり、しっかりと書かれているが、何か落ち着か

ないものがあります。文字の大きさに対して、余白がもう少し欲しいのです。いつもより、抑え気味にして、文言の意味を伝える事に留意して書きましょう。眺めていて疲れないものになる様に。

○名前も作品の一部です。本文との調和を考えましょう。

〈用具・用材〉
筆 和筆四号羊毛 墨 和墨
紙 和画仙

新 和 様 (1級~10級)

課題は段級別です。ご注意ください。

元日の雪降る城の景色かな (河東碧梧桐)

元日の雪降る城の景色かな

名前はフルネームで書きましよう

(用紙 半紙)

(解説は19ページ)

石橋鯉城先生書



禮為奴毛也乃字知
れぬもやのうち

〔出典〕いろは替え歌「ペン字精習」より

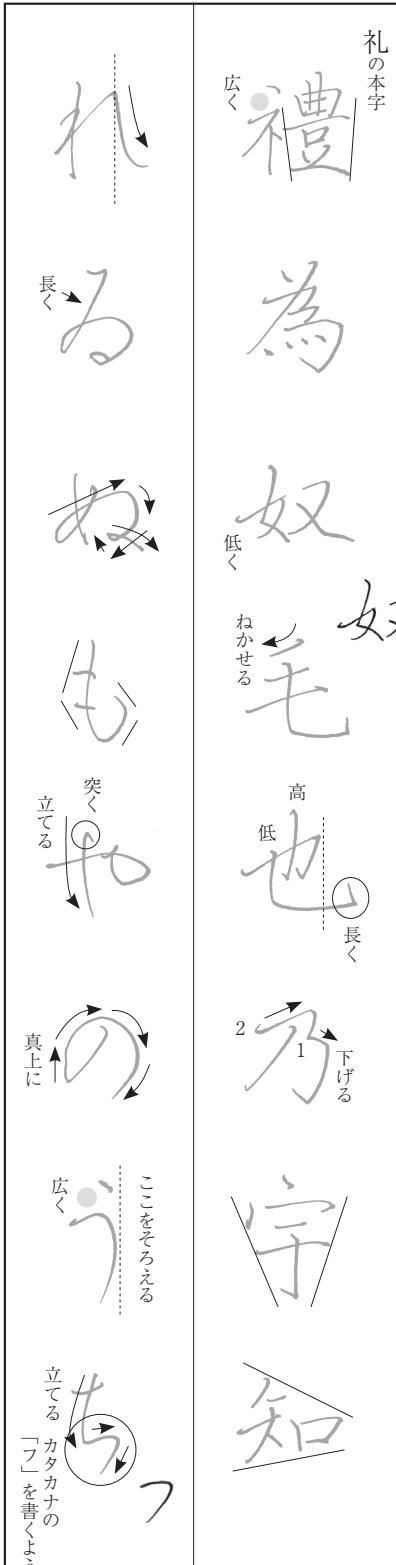
用具

つけペン、万年筆またはデスクペン、
ボールペン、インクは黒色
(鉛筆は不可)

用紙

硬筆用紙2行書き

〈解説〉



日常の文字を書こう！（随意課題）

※どの段級の方でも出品できます。（天・地・人で審査）
「月別出品券」及び「バーコード出品券」を添付し出品してください

（用紙 半紙）



小島鳳治先生書

愛媛 えひめ

砥部 とべ

新居浜 にいひま

香川 かがわ

琴平 ことひら

善通寺 ぜんつうじ

参考の書き方

愛媛 砥部 新居浜

香川 琴平 善通寺

〈小筆の鋒先は特に大切に扱いましょう〉
筆は三分の一から二分の一ほどおろして使います。使い終わったら硯の陸に少量の水を垂らし、おろした鋒先の部分だけを軽くすすぎます。または、ペーパータオルに少量の水を含ませてやさしく拭くようにして、含んだ墨を取ります。きれいにした筆はキャップをして鋒先を傷めないように保管します。

日常の文字を書こう！ — 小筆を使って書く(18) —



教育漢字（4年生）

〈読み〉エン・ひめ

〈意味〉①美しい

②ひめ

美しい女性



教育漢字（4年生）

〈読み〉コウ・か

かお（る）

かお（り）

〈意味〉①かおり

よいにおい

②かおる

かぐわしい

③姿、色、声、

味などがよい

令和二年四月一日より施行された小学校学習指導要領の「学年別漢字配当表」に新たに加わった都道府県の漢字二十字を特集しています。今回はその五回目。愛媛の「媛」、香川の「香」の二字です。

今月も筆写体を用いた参考の書き方を見てみましょう。

【筆写体の例】

○愛媛

「媛」は音読みでは「エン」。隣の「爰」に音があります。「援」「媛」「媛」「媛」これらはどれも「エン」と読みます。この「爰」という字は爪部に所属しています。最初の4画が「爪」ということですね。「媛」は女偏の字です。



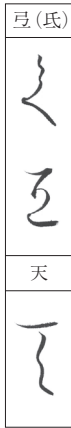
○砥部

「砥」は「砥石」「砥ぐ」の「と」、他に「砥みく」とも読みます。隣の「氏」には形が大きく変わる筆写体があります。変体仮名の「豆」の字源です。



○新居浜

「新」は活字では「木」と書いているところを「ホ」と書いています。下にくる「木」は、画が混み合う部分を点にすると明るくなります。



○香川

参考の書き方では、右払いを止めた形にしています。右払いは横に寝かせるようにして、左払いより高い位置で止め、下に「日」を入れます。下に「ラ」を入れる「琴」も同様です。

「爰」は右払いの下には何も入らないので、低くして安定させます。



○琴平

理は「王」の横画に変化をつけて書きましよう。「参考の書き方」では、「ラ」を「テ」のように書く書き方を紹介しています。

○善通寺

「善」には参考の書き方のほかに、「羊+言」などの書きぶりもあります。



【出品の形式】

| | | | | |
|---|---|-----------|-----------|---|
| | | 1回目 | 2回目 | |
| ○ | ○ | 愛媛 砥部 新居浜 | 香川 琴平 善通寺 | ○ |
| ○ | ○ | 愛媛 砥部 新居浜 | 香川 琴平 善通寺 | ○ |

この形式で出品すること

2行6単語を2回繰り返し返しますが、2回目は「参考の書き方」で書いても良いでしょう。

「一字書って面白いな」

— 筆遣いと筆字の表現 — 運筆の極意に迫る

〈平がな一字書〉（参考作品）



め（この平がなの原字は女の草書形）

12・1月号では、全誌を通して、「愛媛県」「香川県」を特集しています。この課題でも「えひめ」の「め」をお題としました。

「女」という文字は、体が柔婉な女子を表した形ですが、贅肉を取り払い無駄のない骨力の表現を試みています。二本の筆を使い重ねて書いている内に、期せずして楽しい造型が生まれましたので、参考手本としたものです。

活字での曲線の目立つ「め」とは違って、ここでは、直線的な表現を試みています。下の漢字の方は、平がな誕生前の草書の女の字で、女偏の草書の型に近づいてい

〈漢字一字書〉（参考作品）



女（読み）ジョ・ニヨ・おんな・め・なんじ・むすめ
〈意味〉おんな。むすめ。おまえ（汝）。

ます。女と書けば「め」になりますね。鋒の浮沈、鋒の返しを利用して、原字である「女」を思い浮かべて書きましょう。漢字の方は、筆順にしたがって書いて行き、終りに「め」の斜画をつければ「め」になりますね。

（随意課題）
段級に関わりなく出品できます。
評価は天と地になります。

石橋鯉城先生書

〈用具・用材〉筆Ⅱ騰龍二号 墨Ⅱ冠 紙Ⅱ松雪



甲骨文

課題解説

漢字半紙（誌友〜五段）……………（1ページ）

四国霊場巡拝

〔読み〕 四国霊場巡拝

〔大意〕 霊場とは神社、寺など霊験あらたかな場所のこと。特に四国八十八箇所（空海ゆかりの寺院）を巡礼することを四国遍路とよぶ。

〔解説〕

- 半紙に六文字と教室名、名前をバランスよく書く。
- 鋒を利かせて、脈絡を貫通させて書く。
- 四…二画目の転折は、腕を開き腕を上げて鋒を吊り上げる。三〜五画目は鋒先で。
- 國…国の旧字体「國」の筆写の体である。一画目と二画目は、国構の中身が大きくなるように、合わせ方に留意する。
- 靈…兩冠を広く作り、中の点は四面を意識して連筆する。下部は大細をつけて、単調にならないように。
- 場…土偏の二画目の縦画は鋒を横に入れてから。三画目の斜画は鋒を縦に入れてから旁に向かわせる。
- 巡…「く」の向きが変わるところは、腕を上げ鋒を起して曲げる。之繞は斜めに倒し、①⑥のリズムで。
- 拝…旁の4つの横画は、1しっかり抑える、2しっかりすくい上げる、3軽く水平に、4長く伏せる、のように、性質の違う線にしよう。

〔用具・用材〕

筆 永昌四号 墨 油煙和墨 紙 松風



漢字半紙（四段〜初段）……………（2ページ）

寛永通寶

〔読み〕 寛永通寶

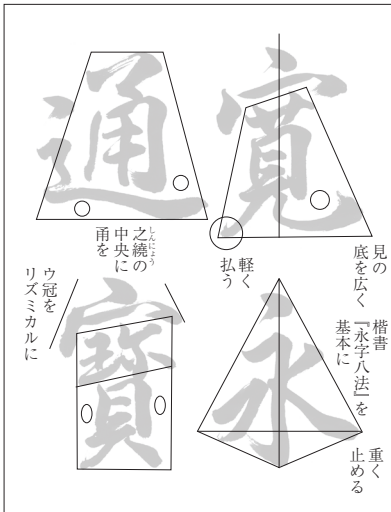
〔大意〕 日本の江戸時代を通じて広く流通した銭貨。香川県観音寺市の有明浜に「寛永通宝」の巨大な砂絵がある。

〔解説〕

- 四文字をバランスよく書く。
- 行書の連筆の呼吸を学ぼう。
- 寛…ウ冠を大きくして、下のサと見を中央にバランスよく仕上げる。「見」の底を広く。
- 永…楷書の「永字八法」を基本にして、特に、最後の払いを行書的に強めて表現する。
- 通…しんのような上に、マと用の文字を中央に乗せた格好をイメージしておおらかに。
- 寶…二度めの「ウ冠」ゆえにリズムカルに、下の珍と貝は重めにどっしりと書く。

〔用具・用材〕

筆 唐筆羊毫（四号程度の太さ）
墨 松鶴斎壽 紙 松風



漢字半紙（1級〜10級）……………（3ページ）

大権現

〔読み〕 大権現

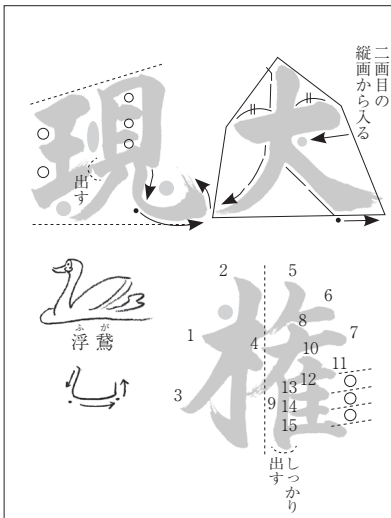
〔大意〕 権現は、日本の神の神号の一つ。象頭山金毘羅大権現は香川県琴平町にある。

〔解説〕

- 三文字を楷書でバランスよく書く。
- 鋒先の位置を確認しながら、きりっとした書線で表現しよう。
- 大…概形を五角形にまとめる。二画目は横画を二等分するように、ほぼ垂直に入り、筆を立てて左へ払う。三画目は縦画から入り、徐々に圧を加えながら止まつて払う。
- 権…木偏と「犮」の組合せ。木偏は旁にぶつからないよう右側を揃える。（相譲相避）犮の横画はリズムよく書くとき等間隔になる。
- 現…王偏（玉偏）と「見」の組合せ。偏を小さくし、旁をゆつたりと。最終画は鳥が水面に浮かんでいる姿をイメージして（浮鷺）筆勢よくまとめたい。

〔用具・用材〕

筆 唐筆羊毫（四号程度の太さ） 墨 松鶴斎壽 紙 松風



「秀歌之體大略」

解説 浅野秋月先生

古、ろ阿て尔おら者や於らむ初霜乃を支まとはせるしら菊の花

〈読み〉心あてに折らばや折らむ初霜の置き惑わせる白菊の花

〈大意〉もし折るとするならば、当てずっぽうで折ることになるか。初霜が降りて一面が真っ白になっており、見分けにくくなっている白菊の花よ。

りて一面が真っ白になっており、見分けにくくなっている白菊の花よ。

〔出典〕「古今和歌集」秋下二七七 凡河内躬恒

〈解説〉

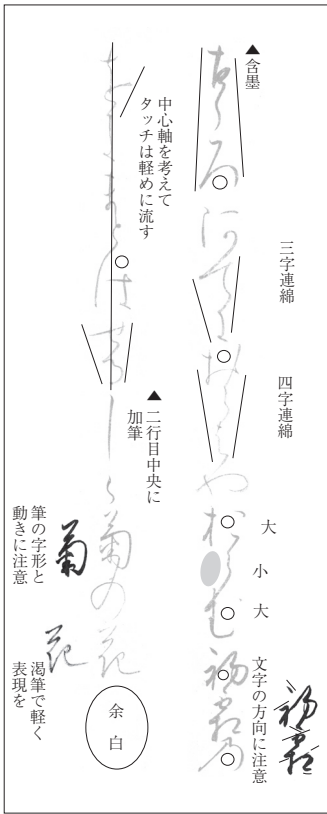
○一行目は、短歌の上の句・575である。冒頭の「古、ろ阿て尔」の「古」に含墨して「古、」と「阿て尔」をそれぞれ連続で表現する。次に「おら者や於らむ」の「おら者や」と「於らむ」を連続で軽く流したい。ただし、「於」と次の「初霜」の部分に加墨して立体感を出す。「初霜」の草書の字形に留意するところ。

○二行目は、短歌の下の句77である。「を支まとはせる」は2・3・2の連続と字幅を意識してやや軽いタッチを心掛けたい。ことに、呼吸の流れを観察の上で実筆するように。最後は、「しら菊の花」の「し」に加墨して「菊の花」の重さと結体を考えて仕上げよう。

○短冊の書式について理解して全体の構成を考える。

○全体を見て、漢字と変体仮名の使い方並びに、連続に注意してほしい。

○墨絵に見られるような濃淡の美を觀賞して、意識しながら美感覚を養うこと。



あ万の者ら ぶりさ介見れ盤 春日なる 三笠能山二 いでし月可も

〈読み〉天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に いでし月かも

〈大意〉大空をふり仰いで遙かにながめると、(天空に月がのぼっているが、あの月は) 春日にある三笠の山に、かつてさしのぼっていた月だったのかなあ。

〔作者〕安倍仲磨(六九八〜七七〇)

〔出典〕『評解小倉百人一首』京都書房

〔解説〕正しい姿勢で書きましょう。

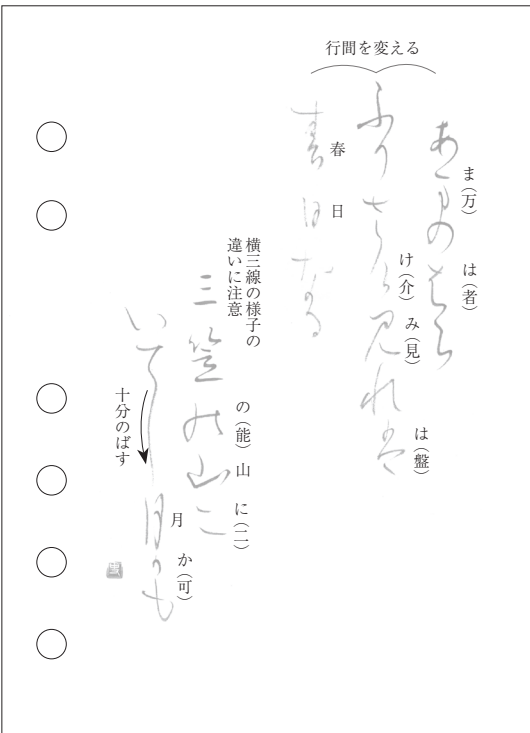
今回は、和歌の上の句三行、下の句二行の散らし書きにしました。作品に動きがついて、少しオシャレな印象でしょう。

動きがある分、上の句と下の句の位置関係をうまく取ることが大切です。行の長さは、すべて異なっています。それぞれの行間、半紙への収め方(教室・氏名を書く余白の確保)を工夫して下さい。

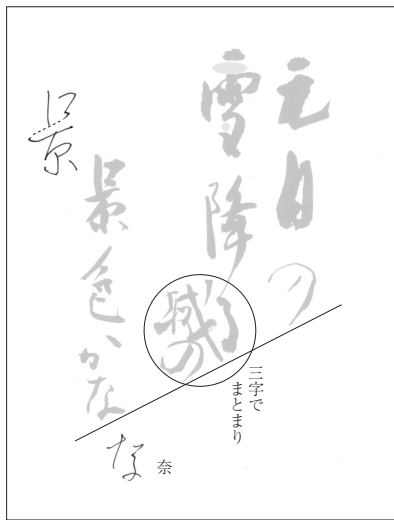
漢字を多用しているので、かなと上手に調和させましょう。

〈用具・用材〉

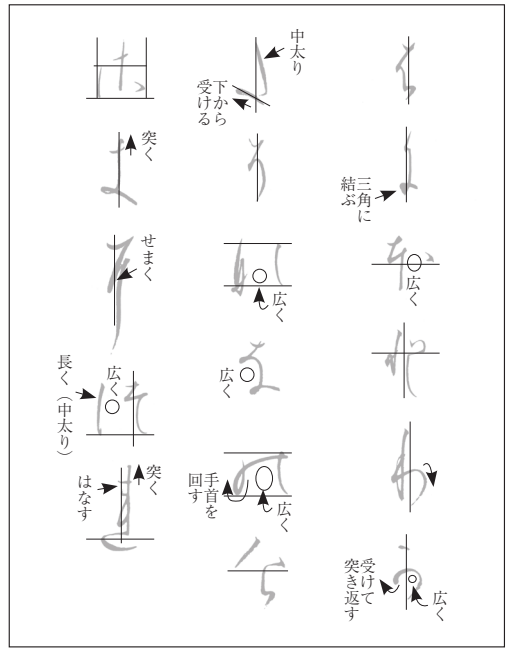
筆Ⅱかな用小筆 墨Ⅱかな用和墨紙Ⅱかな用半紙



※左はしには、教室名・氏名を入れます。



新和様 (1級〜10級)



かな半紙 (1級〜10級)
..... (6ページ)

者尔本登利可
はにほとりか

多曾那奈能介
たそなのけ

佐支耳徒連
さきにつれ

※単体の変体仮名です。くり返し学習してください。古典学習の基本となります。
※六字詰で、大きく半紙で習って筆の動きを確かめよう。

元日の雪降る城の景色かな

〔作者〕河東碧梧桐 (一八七三〜一九三七)

〔解説〕

○明治三十六年の末から松山に帰省中だった碧梧桐が、元日の降雪を詠んだ。城は松山城のことか。元日の雪は、その年の豊かな実りを寿ぐ吉兆であると言われる。碧梧桐は高浜虚子と並ぶ子規の高弟であったが、前年の子規の世界を断ち切るように詠んだものと思われる。

○「元日の雪降る城の」と「景色かな」の二部仕立て。「城の」の三字が一塊になって、中心に収まっている。

○含墨は書き出しのみ。鋒の浮沈で太細と濃淡の変化を見せたい。

○半紙で「元日の雪降る」「城の景色かな」と習っての出品も可。

〔用具・用材〕

筆 羊毫細長鋒 墨 顕微無間 紙 松雪

◆来月号課題予告

漢字半紙

誌友 5段 漢委奴國王

四段 初段 有柄銅劍

1級 10級 軍艦島

かな半紙

誌友 5段 君可代八つ支しと所於无ふ神風や
三も須所可八の春末む可き利は

四段 初段 つくばねの峰よりおつるみな川
こひぞつもりて淵となりぬる

1級 10級 二字連綿

漢字条幅

誌友 初段 未定

1級 10級 蓋聞二儀有象 (雁塔聖教序の臨書)

かな条幅

誌友 10級 うごくとも見えて畑うつ麓かな

新和様

八段 初段 疑わしきは問を思う

1級 10級 未定

ペン

八段 初段 文字を通して、あるいは音楽を通して、日本人は白秋の作品、その

〔言葉〕を一度は通過していると思われる。

九州北部に位置する佐賀は、東は福岡、西は長崎に接している。

※課題は変更になることがあります。